

踏み跡 <My Mountains>

足尾	銀山平から庚申山	No.206
----	----------	--------

足尾銅山の手前にある庚申山・袈裟丸山・皇海山（すかいさん）に注目し始めたのはいつ頃からだっただろうか。日光の白根山から南に伸びる群馬・栃木県境の稜線は、錫ヶ岳・宿堂坊山・・・皇海山、鋸山・袈裟丸山・・・と続く。鋸山から東に突き出した稜線上にあるのが庚申山。皇海山と庚申山の二つを一気に歩き通すとなるとちょっとハードワークになるのでスケジュールもしくく、これまでに残り残してしまった。まずは一念発起、手始めに庚申山へ行ってみようと思い計画を立てた。初日に桐生まで入っておいて、二日目に登って下りて帰って来ようということにした。

昭和61年12月20日
 15時に車で自宅を出発。岩槻のセブンイレブンで食糧等を整えて、岩槻インターから東北自動車道に入った。
 佐野藤岡インターで下りて国道50号線経由桐生へ。そして両毛線桐生駅前にある桐生ステーションホテルに19時到着。チェックイン後駅前で夕食（カキフライ定食）をとり、ホテルでカンチュウハイを一本。
 21時、目覚まし時計を6時にセットして就寝。

昭和61年12月21日
 目覚まし時計に頼って熟睡していたが・・・、音に気付かず寝坊。6時35分に起床、天気は晴れ。用意してあるおにぎりとお茶の朝食をそそくさと食べて、7時に出発。大間々から国道122号線に入り、渡良瀬川に沿って北上。（厳密に言えば北東）
 県境を越えて栃木県に入りしばらく進み、国道122号線を離れて庚申溪谷へ。国民宿舎かじか荘がある銀山平に8時20分着。車をここに駐車して置く腹積もりだったがもう少し奥まで入れそうなので、身支度を整えた上で林道終点まで移動。晴天ではあるがやや雲がある。肌感覚としては「やや寒め」。しばらく林道歩きが続き一の鳥居に9時10分着。ここから枯れ葉を敷き詰めたような、いかにも師走らしい山道が始まる。（右写真）

鏡岩9時50分、日が高くなるにつれて気温が上がってきた上に脊中から日があたるので暑くてたまらない。

猿田彦神社跡10時20分。猿田彦神社は昭和21年に焼失との表示がある。足元にうっすらと雪が出てき始めた。

庚申山荘10時30分。庚申山の岩壁を背にした山荘のたたずまいは見事。木造の新館もできている。時々銃の音ではないかと思うような轟音が響き渡っている。岩壁の至る所にさがった立派なつららが時々落下して岩場に当たって砕ける音が岩壁に響き、更に付近の山々にこだまとなって響いているためと判るのには随分時間がかかった。（次ページの写真）



（次ページの写真）

踏み跡 <My Mountains>

山荘を過ぎてしばらく、最後の登りに入ると積雪も深くなってきた。

庚申山（1892m）11時30分着。頂上を示す標識の周りには薄く残った雪が凍りついている。真っ白に衣を付けた白根山を筆頭に日光連山が間近で大きい。目の前の皇海山から遠くに見える上越国境の山々まで、なかなかの眺めだ。

眺めに見入っていると草むらから一匹の猟犬が出てきた。谷に向かって匂いを嗅ぎながら吠えてばかりいる。どうやら迷ってしまったらしい。静かな山頂で犬の視線を避けながら昼食。本日のメニューはブドウパン・焼肉缶詰・紅茶・みかん etc。



（左写真：庚申山頂上をうろつく「どじな猟犬」）
小一時間休憩しただろうか。下りは氷との戦い、滑らぬように腰を構えて歩くとけっこう疲れる。
一の鳥居に14時50分帰着。
せっかくの機会なので、庚申七滝を見物してから林道終点の駐車場所まで下った。
懸案だった山がクリアできてよかったが、欲を言えば鋸山・皇海山まで足が伸ばせれば・・・
今年の締めくくりの山歩きは無事終了。

以上



庚申山からの展望

上：鋸山と皇海山
右：白根山
下：日光連山のパノラマ

